

# 新城小 UD

## 分かりやすい授業につなげる視覚化・構造化のポイント

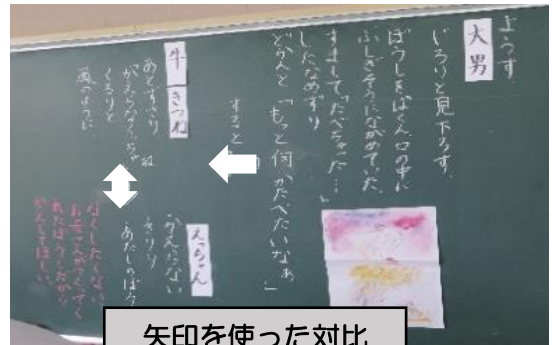
### 板書・提示の工夫

◇内容の理解につなげるために、場面絵や吹き出しを活用。



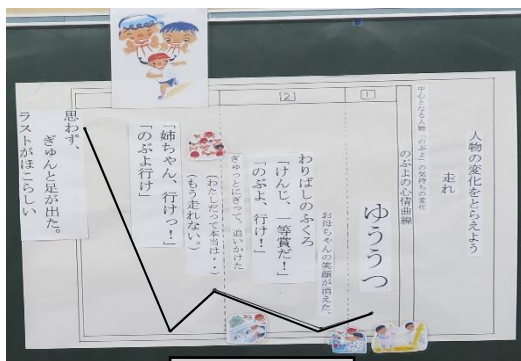
場面絵や吹き出し

◇様子や気持ちの違いを対比させるために、上下に区切ったり、矢印を使ったりして板書。



矢印を使った対比

◇気持ちの変化を捉えやすくするために、心情曲線や人物関係図等を活用。



心情曲線

◇本時の学習を捉えやすくするために、一貫性を持たせて板書。



めあてとまとめが一目で分かる板書

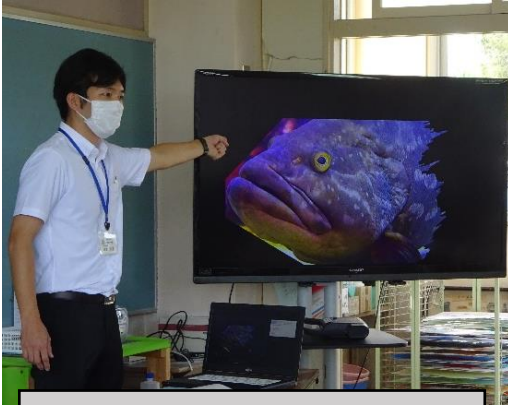
- めあてとまとめが一目で分かるように、課題は青、まとめは赤のチョークで囲む。めあてとまとめの頭文字 **め**, **ま** や、学年に応じて思考を整理するための **様子** **気持ち**, **効果** などのマグネットを提示する。
- ワークシートを使用する際には、ワークシートと対応した板書を行う。
- 中心発問やキーワードを紙板書等を活用して、印象的に提示する。



学年に応じたマグネットの活用

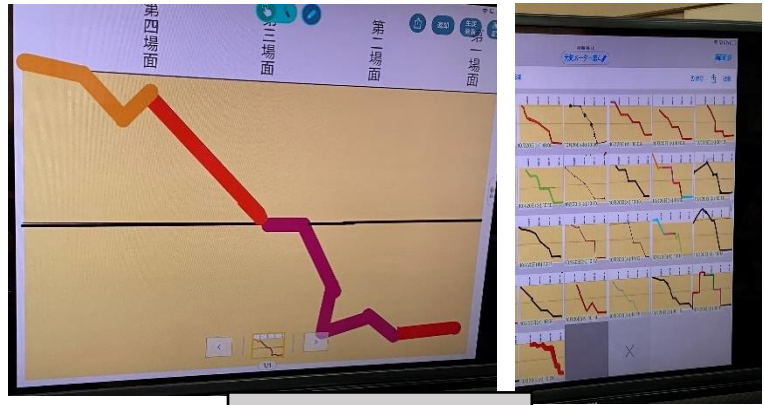
## ICTの活用

◇具体的なイメージを持たせるために、挿絵・写真などを活用。



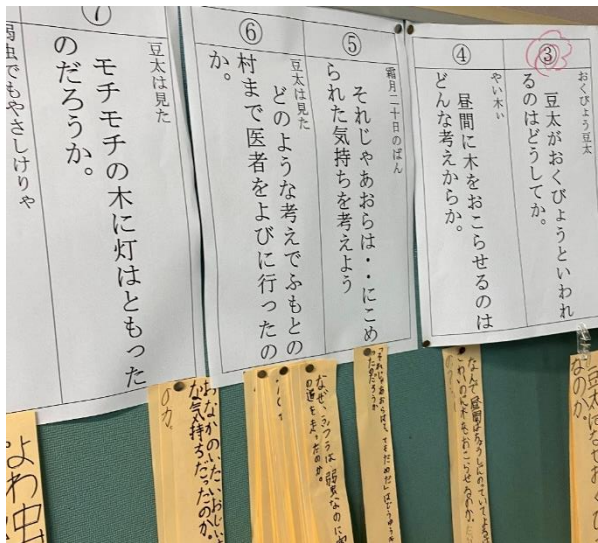
本時に関する写真（モニター提示）

◇児童がタブレットで作成した資料を提示。

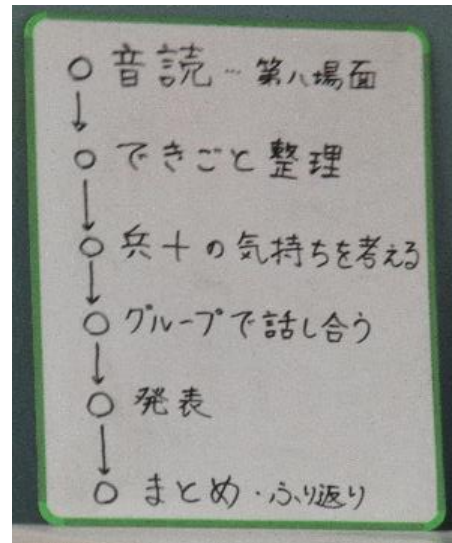


心情曲線

## 学習展開の工夫



単元計画表・児童の感想（短冊）



本時の流れの提示

○見通しを持たせるために、単元計画表やホワイトボード等で、単元や本時の流れを提示する。

○「導入→めあての提示→展開1→展開2→まとめ」の基本のフレームに沿って授業を展開する。

※展開の段階で発問や活動を設定する際には、展開2に重点を置き、展開1と展開2のつながりや難易度に気を付ける。

○活動のモデルを見せたり、同様の活動を繰り返したりと、スモールステップで学習を進める。